

常任委員会・分科会報告(Q&A)

上程（議事日程に組み入れ議題とし、審議の対象とすること）された議案は各常任委員会及び分科会に付託されます。各委員会では、議案について当局より説明を受けるなど慎重に審査されています。

産業経済 常任委員会

Q 山内観光振興公社の今年度の経営計画について問う。

A 経営改善計画については、公社より口頭で伺っている。鶴ヶ池荘は立地を考えると積極的な誘客が必要な施設。財務を改善していくためには、収益率の高い宿泊部門をてこ入れしていかなければならないと考えている。現在、新しく開設したわらび園とタイアップしたプランや、観劇、素泊まり、閑散期のゴルフプラン等、新たなプランを商品化して、収益を上げていこうという計画になっている。また、経営計画書については、法人と協議しながら、全ての施設が同じような形の、わかりやすい資料の作成に努めていきたい。

Q 農業夢プラン、枝豆日本一について問う。

A 県では、平成26年度までに5,722tまでもっていき、枝豆日本一にするという目標をもっている。市の見込みは今年度、面積が122ha、出荷量が約550tである。もともと枝豆を栽培する農家が多かったが、県が目標に向け全農とタイアップし、底上げするというところで予算規模を増やすとともに採択範囲を拡大し、新たに24名の応募者が追加された。応援事業の内容は枝豆のハーベスタや選別機等で、生産規模拡大に向けた生産性向上、省力化機械の導入等である。



J A秋田ふるさと分析センターを視察

厚生 常任委員会

Q 国保税について問う。

A 国保も財源は、加入者の納める保険税と公的財源によって運営されていることから、保険給付費、医療費などの伸びに見合った保険税を求めることが理想である。しかし、経済不況の中で、増加する医療費や、他市町村との助け合い制度（保険財政共同安定化事業）などによって生じる費用負担のすべてを保険税として賦課することは、大幅な税率のアップになってしまう。それを回避するため、基金を取り崩すなどしてきたが、それでも国保を取り巻く環境は悪化してきており、今年度は、一般会計から、さらに法定外の繰り入れをして対処し、大幅な税率の引き上げを抑え

ることができた。

Q 認知症早期発見の取り組みについて問う。

A 介護予防事業の生活機能評価の基本チェックリストを早期発見の手がかりとして活用している。認知症を理解し認知症に対する偏見をなくして地域で見守るという目的で認知症サポーター養成講座を積極的に実施している。講座を重ねていく中で、地域で早期に見てできる仕組みを作っていきたい。

Q 横手駅前のできる健康の駅について

A ランニングマシンを10台に増やしたり、エアロバイク等の設備を補強したりして、プログラムの充実を図り、利用を促進する。



5月6日にオープンした横手病院増築棟を視察